



ユースアクション2010 申込方法 〈中京区青少年の福祉体験事業〉



対象

- ①中京区内在住の中学生・高校生、または同年齢の青少年
- ②中京区内の中学・高校に通学している生徒
- ③その他（専門学校生・大学生については、定員の限りで受け入れる）

期間

平成22年8月2日(月)～8月19日(木)
 ※事前交流会：7月30日(金)
 事後交流会：8月20日(金)

申込方法

★体験施設が分かるパンフレットを手に入れて、エントリー（申込み）してください。
 申込み締切り：7月9日(金)

*パンフレット請求は、中京区社会福祉協議会までご連絡ください。TEL.822-1011まで

はじめの一歩!!

ボランティア入門講座のお知らせ

中京区ボランティアセンターでは、各種入門講座を開催しております。今年度は下記の4つの入門講座を予定しています。申込み方法や詳細につきましては、町内回覧板や掲示板、区民しんぶん等で随時お知らせいたします。関心のある方は、ぜひお問い合わせください。

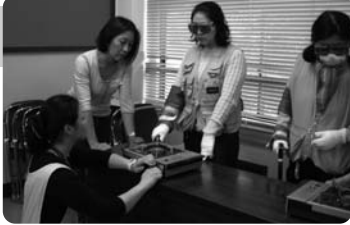
手話教室（昼の部・夜の部） 開催時期：11月

聴覚に障がいのある方のコミュニケーションの方法を知りましょう。聴覚障がいの方々との交流を通して普段の生活や思いを知り、手話の基礎だけでなく気持ちを相手に伝える方法を実践的に学ぶことのできる教室です。



中京区介護ボランティア養成講座 開催時期：11月頃

介護を必要とする方の状況を知り、その生活や気持ちを学びましょう。介護に係わるボランティアグループ等での体験もできるため、すぐにボランティア活動をはじめられることもできます。



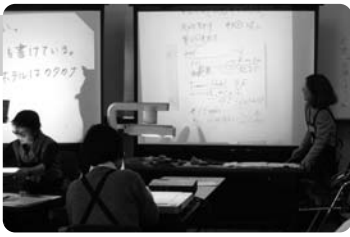
点字入門講座 開催時期：2月頃

視覚に障がいのある方を正しく理解し、点字をはじめとした視覚に障がいのある方への支援の方法を学ぶ講座です。



要約筆記入門講座 開催時期：3月頃

難聴者や中途失聴者の方に文字を通して情報を提供する要約筆記。意外に知らない方も多いようです。言葉を文字で伝える体験を通して、聴覚に障がいのある方を正しく理解しましょう。



べんがら ごうし nakagyo

～つながり・ささえ・ふれあう
中京のまち(^0^)-

2010年6月発行

34号



編集・発行
 社会福祉法人 京都市中京区社会福祉協議会
 〒604-8316 京都市中京区大宮通御池下る三坊大宮町121-2
 TEL.075-822-1011 FAX.075-822-1829 http://www.mediawars.ne.jp/fukusi06

中京区地域福祉活動計画

〈第二次プラン〉推進中!

現在、中京区社会福祉協議会では「つながり・ささえ・ふれあう中京のまち」を基本理念に、2008年に策定した中京区地域福祉活動計画〈第二次プラン〉に基づいて、様々な事業や取組を展開しています。

〈福祉学習・啓発機会の充実にむけた取組〉

青少年向けのボランティア体験や、各種福祉ボランティア講座を開催しています。
 何かボランティア活動を始めようと考えておられる方や福祉活動に関心のある方は、体験や学びを通じて理解を深めてみませんか？

夏休みのボランティア体験!

参加者募集中!

中京区内の中高校生等が社会福祉施設に出向く「ユースアクション」。異なる年齢の方々とのふれあいを通して、社会や人とつながる体験ができます。
 普段はなかなか知ることができない社会福祉施設での貴重な体験。この夏、「新しい発見」をしてみませんか？



夏休みのボランティア体験（ユースアクション）やボランティア入門講座の申込方法・詳細は裏面をご覧ください。⇒ (4Pへ)

本紙は共同募金の配分金によってつくられています。

当日は、講師に同志社大学社会学部教授の立木茂雄先生をお迎えし「防災と市民力」についてご講演いただきました。講演では、阪神・淡路大震災当時のデータやビデオ映像、今年の台風9号で被災された兵庫県佐用町での実践や教訓、災害による被害を出来るだけ少なくするために、普段からの地域福祉活動の重要性など、大変わかりやすくお話をいただき、参加者もみな真剣に耳を傾けていました。

※講演内容要旨

大規模災害時には、自助・共助の力が重要

阪神・淡路大震災の火災地域での調査で「生き埋め・閉じこめられた人は誰に救助されたのか」というデータがありますが、自助35%、公助2%、共助63%という結果が出ており、共助には家族や友人、隣人がほとんどを占めていることがわかります。このような結果からも、災害が発生した時に駆けつけて助け合うことが出来るのは地域の人たちです。災害時の要援護者の避難支援についても、大規模災害時には、行政など専門機関による救援には限界があるため、地域の住民が自ら家族を守り、地域を守っていく自助・共助が、大きな力を発揮することが示されています。

地域の市民力をいかにして高めるか

一方で災害時に自助・共助の力を発揮していくには、「人と人とのつながり」なしでは語れません。



要援護住民の情報把握に関する取組

中京区地域福祉活動計画<第二次プラン>を策定する経過の中でも関心が高かった災害時の地域対応について、～災害にも強いまちづくりを目指して～をテーマに「中京区福祉のまちづくりを考える区民集会」を開催しました。(平成22年2月3日)
[主催：中京区地域福祉推進委員会・京都市中京区社会福祉協議会(中京区地域福祉活動計画推進協議会)]

では、人とのつながり(地域の市民力)は、いかにして高められるのでしょうか。

人間関係が希薄化していく中で、近年では“ソーシャルキャピタル”という「人々の協調行動が活発化することにより社会の効率性を高めることが出来る」という考え方が注目されています。

この考え方と地域の安心・安全の関係を調べたところ、地域の中で豊かな人間関係やネットワークを築くためには、次の5つの軸が大変重要な鍵を握っていることがわかりました。

5つの軸とは、

1. 多様な住民参加軸

間をとりにつ仲介者が地域にいる。多様な住民・団体・事業者が参加できる。

2. イベント軸

大人も子どもも参加できる地域主催の行事やイベントがある。

3. 組織の自律力確保

多様な役割をもったメンバーからなる地域組織が継続している。

4. 地域・テーマの興味や愛着軸

地域の歴史や文化、共通テーマを発見、またその発信をしている。

5. あいさつ軸

近所で努めてあいさつや声かけをする。地域の子どもが大人にあいさつをする工夫をこらす。

「土手の花見」を参考にした地域福祉活動

かつて「土手の花見のように楽しみながら防災する」と力説した先生がおられました。「土手の花見」とは、堤防沿いに桜の木を植え、雪解けで地盤が緩くなる冬から春にかけて、花見客の足で地盤を固めようという先人の知恵です。

この考えに基づけば、「防災」を考えるとき、「防災」を第一の目的にするよりも普段の活動の一部が結果的に防災や防犯の役に立っている、との考え方が理想的だと考えられます。これは、防災と地域福祉の関係や、福祉のまちづくりの推進についても同じことが言えるのではないのでしょうか。

講演で紹介された防災に関する豆知識

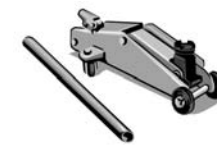
①京都市が発行している情報やマップをご存知ですか？

京都市のホームページから、行政区ごとの「いざというときに身を守る情報」や、地震・水災害に関する「ハザードマップ(災害予測図)」が入手できるようになっています。ぜひ一度お住まいの地域の情報をご確認下さい。

②身近なところにある減災機具とは？

地震災害により家屋が倒壊した場合、緊急でジャッキやバールが必要になることが想定されます。

そんな時は、自動車に積んである油圧式ジャッキを活用することもアイデアの一つです。



ハザードマップ(災害予測図)



Q 地域の中には、なかなか心を開いてくれない方もおられます。どうすればいいでしょう。

A 普段はつながりが少なくても、いざ災害が起ると隣近所が一番の助っ人になります。当事者の納得が必要ですね。そのためにも、日頃のあいさつが大事。これがなかなか効果的なんですね。「あ」かるい声で、「い」つも、「さ」きに、「つ」づける、という「あいさつ広め運動」がありますが、このルールをみんなが共有化し、タイム(時間をかけて)・トーク(話しあい)・トラスト(信頼を得る)という「3つのT」の精神で根気よく努めてみてはいかがでしょうか。



Q 障がいのある方の把握をしたいのですが、障害者団体に入っている人はわずかです。どうすれば、障がいのある方たちのことを把握できるのか教えてください。

A このことはいろんな自治体が頭を痛めています。存在情報がわかる行政台帳がありますが、なかなか公開してもらえませんので、直接当事者に問いかけをしてみてもいいかもしれません。

たとえば、ハザードマップを見せて緊急時の対応を知らせるとか、ストレートに「あなたがここにいることを隣近所の人を知っていれば、助けることが出来るので、ご協力いただきたい」と伝え、同意が得られたら避難マニュアルをつくります。口で言うのはたやすいですが、一朝一夕にはいきません。何よりもご本人の同意が大切です。